

## 第27回 戦没者追悼・平和祈念式典 式辞

多くの尊い犠牲を重ねた末に迎えた終戦から75年、今年も平和を祈る暑い夏がやってきました。

本日ここに、第27回高森町戦没者追悼・平和祈念式典を挙げるにあたり、日本の平和と繁栄のための礎となりました戦没者ならびに犠牲者の御霊位に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

我が国は、戦後の廢墟の中から復興し、産業、経済の飛躍的な発展を遂げ、世界の中でも先進国家の一員として目覚ましい成長をしてまいりました。現在の平和と繁栄は、郷土発展のために尽くされた先人の皆さまのご努力の上に享受されていることに対し、改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスは世界的に感染拡大を続け、人類にとって大きな脅威とともに、医療現場はもとより、これまでにない「新たな生活様式」による日常や経済活動など、私たちに様々な試練を与えています。今こそ、私たちが心を一つにして力を合わせ、この難局を乗り越えていかなければなりません。

本来であれば、この戦没者追悼・平和祈念式典も、ご遺族をはじめ多くのご来賓各位をお願いして開催すべきではありますが、規模を縮小して実施せざるを得ず、また、平成元年より継続して行ってきました、広島平和祈念式典への「広島平和のかけはし使節団」の派遣も中止せざるを得ませんでした。

しかし、そのような中ではあっても、「平和へのかけはし条例」に基づき8月を平和月間としている当町では、今月1日に、満蒙開拓平和記念館の寺沢秀文館長をお招きし、平和講演会を開催。満州開拓団として多くの人々を派遣した当地域の背景や、現地住民への「加害」、その結果、多くの犠牲者をもたらすこととなった「被害」など、命の尊さや平和の大切さを学びました。

また、「平和のかけはし使節団」の派遣が中止になったこともあり、今年度は、町民の皆さまに常会を通じて折り鶴の作成をお願いしたところ、平和への想いのこもった58,700羽の千羽鶴を届けていただきました。今年度は、この式典に奉納させていただいた後、平和への祈りと共に広島へお届けしたいと思っております。

今年度からスタートした第7次振興総合計画「まちづくりプラン」に掲げる将来像は「なりたい『あなた』に会えるまち～日本一のしあわせタウン高森」です。将来像の実現には、地域が、世界が平和であることが重要な基盤となります。

これからも町民一人ひとりが平和について関心を持ち、命の尊さを知り、お互いを尊重し合う事を、家庭や学校、職場、そして地域で実践していただくとともに、世界恒久平和の実現のため、地道ではあっても一歩ずつ努力を続け、全力を尽くしてまいりますこととお誓い申し上げます。

終わりに、本日の式典を開催するにあたり、戦争の犠牲となられたました御霊位に対し、改めてご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族をはじめご参列の皆さま、町民の皆さまの、ご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、式辞といたします。

令和2年8月15日

高森町長 壬生 照玄